

2025年3月30日(日)

日本キリスト教団 ^{きゅうほうきょうかい}久宝教会

第67巻第53号(通算3435号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

ちい ひと
小さくされている人を
たいせつ きょうかい
大切にする教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

丈夫な人に医者はいらないが、具合の悪い人には必要なのだ。実に、私が来たのは、「正統派の人」
を招くためではなく、「道をふみはずした者」を招くためである。(マルコによる福音書2:17)

じゅなんせつ だい しゅじつれいはい
レント(受難節) 第4主日礼拝

れいはい
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜんそう もくとう ちよさくけんしやうめつ
前奏(黙祷) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しへん へん せつ
招きの詞 詩編 145編 1-4節

さんび か ばん にな じゅうじか せつ
賛美歌 21-305番「イエスの担った十字架は」(1-4節) (©JASRAC)

しょうとう ことば
消灯の詞

せいしょ ふくいんしょ しょう せつ
聖書 マタイによる福音書 17章 1-9節

いの
お祈り

さんび か ばん たか やま うえ きやうだんさんびかかいていいんかい
賛美歌 21-285番「高き山の上」(©教団讚美歌改訂委員会)

メッセージ「これに聞け」 水谷 憲 牧師

さんび か ばん しんじつ きよ い きやうだんさんびかいいんかい
賛美歌 21-520番「真実に清く生きたい」(©教団讚美歌委員会)

しゅいの ばん てん ちち さんびかかいていいんかい
主の祈り 21-62番「天にいます わたしたちの父」(©讚美歌改訂委員会)

みづたにけんぼくしりにんしき うしだ ただし ぼくし
水谷憲牧師離任式 牛田 匡 牧師

たんじやうしゃしゆくふくしき みづたに けん ぼくし
誕生者祝福式(*) 水谷 憲 牧師

ささげもの
献げ物(*)

は けん ばん かみ めぐ う せつ
派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゆくふく みづたに けん ぼくし
祝福 水谷 憲 牧師

こうそう ばん きやうだんさんびかいいんかい
後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讚美歌委員会)

ほうこく ページ さんしやう
報告 (4頁をご参照ください)

せき すわ れいはい さんか
《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* みんなで3月にお生まれになった方をお祝いします。

** 「献げ物(献金)」は、受付にある献金箱にお献げください。

招きの詞 詩編 145 編 1-4節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

1 賛美。ダビデの詩。

わが神、王よ、あなたを^{あが}崇め
代々^{よよ}とこしえに御名^{みな}をたたえます。

2 日ごとにあなたをたたえ
代々^{よよ}とこしえに御名^{みな}を賛美します。

3 主は大いなる方、大いに賛美される方。
その偉大さは計り知れない。

4 代々、人はあなたの^{わざ}業をほめたたえ
力強い^{みわざ}御業を告げ知らせます。



しょうとう ことば
消灯の詞 (参照：マタイによる福音書 21 章 7-11 節、27 章 15-23 節)

「^a ホサナ、ホサナ」と言ってイエス様を歓迎したのに、すぐその後に「十字架につけよ」と叫んだエルサレムの人々のことを思いながら、4 つ目のろうそくを消します。 (注 a:「どうか私たちをお救いください」の意味)

聖書 マタイによる^{ふくいんしょ}福音書 17 章 1-9 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

1 六日の後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。2 すると、彼らの目の前でイエスの姿が変わり、顔は太陽のように輝き、衣は光のように白くなった。3 見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。4 ペトロが口を挟んでイエスに言った。「主よ、私たちがここにいるのは、素晴らしいことです。お望みでしたら、ここに幕屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのために。」5 ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを^{おお}覆った。すると、雲の中から、「これは私の愛する子、^b 私の心に^{かな}適う者。これに聞け」と言う声がした。6 弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。7 イエスは近寄り、彼らに手を触れて言われた。「立ち上がりなさい。恐れることはない。」8 彼らが目を上げて見ると、イエスのほかには誰もいなかった。9 一同が山を下っているとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことを誰にも話してはならない」と弟子たちに命じられた。

(脚注 b:直訳「私はこれを喜ぶ」)

《先週のメッセージより》2025年3月23日 受難節第3主日礼拝

「神の力は底辺から」より

牛田匡牧師

聖書 マタイによる福音書 16章 13-28節

保育園の子どもたちが、これまで「いっぱい大切にされた」という経験と思い出をたくさん持って、「この世界はすばらしい。温かくて、生きていて嬉しい」と感じてくれながら卒園していってくれることは、とても嬉しいことです。これから小学校へ行っても、それから先も、大人になっても、ずっとそう思い続けて欲しいとも、願わずにはられません。しかし、社会では今も尚、格差があり差別があり、他人を踏みつけたり傷つけたりする権力者や為政者もいます。そのような社会は、本当に「美しくて素晴らしい世界、温かくて生きていて嬉しい世界」と言えるのでしょうか。私たちはどこかで一番大切なものを、無くしてしまっているのではないのでしょうか。

今回のお話の中にも、そのようなイエス様の言葉がありました。「人がたとえ全世界を手に入れたとしても、自分自身をダメにしてしまうなら、何の意味があろうか。人には自分自身に代わる値打ちのあるものが、何かあるだろうか」(26)。イエス様ご自身も、「このままエルサレムに行けば殺されるかもしれない」と身の危険を感じていたにもかかわらず、それでも心から確信して決して譲れない道として、やがて十字架へと向かうご自身の使命の道を進まれました。一番大切なものは、表舞台で大勢の人々の目に留まり、称賛を浴びるようなものではなく、決して目立たず、むしろ多くの人からは望まれず、忌避されるようなものの中にあるのかもしれない。前半にある「私はこの岩(ペトラ)の上に私の教会を建てよう」(18)という言葉も同様です。「ペトロ(岩・石ころ)」という名前は、シモンに付けられた「あだ名」ですが、「ペトラ」は、地表に姿を見せている岩や石である「ペトロ」よりももっと大きな岩の塊、地面を深く掘り下げて出てくる岩盤を表す言葉です。ですからイエス様が伝えられたのは、「教会は地上に高くそびえ立つ、きらびやかな建物ではなく、地面を掘り下げた低み、社会の底辺にこそ建つ」ということだったのではないかと思います。

神の力が働くのは、目に見える石が幾つも転がっている地表ではなく、一人一人の内面を深く掘り下げた岩盤のある所、魂のある所であり、またこの社会の中で多くの評価や称賛の得られる高い所ではなく、むしろ人々から見放されたような、見向きもされない忘れられた底辺です。それでもそこから、いやそれだからこそ、そこから私たちは「この世界は美しく、温かく、生きていて素晴らしい世界」だと、声を上げ、身をもって示す歩みへと、今日も神様と共にあって導かれて行きます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 2025年3月23日 受難節第3主日礼拝

礼拝出席 大人5名 献金 大人4,200円 中継視聴者数8回 感謝

礼拝後に臨時教会総会が開催され、担任教師・水谷憲牧師の今月末での辞任が承認されました。水谷憲牧師は今年2024年度に代務者を勤められていた大阪淡路教会に、2025年度より主任担任教師として招聘されており、就任予定です。

◎次週 2025年4月6日(日) 受難節(レント) 第5主日礼拝

招きの詞 詩編 118編 1,2,6節

聖書 マタイによる福音書 20章 20-28節

メッセージ 「下に上る生き方？」牛田匡牧師

賛美歌 21-305番(©JASRAC)、21-443番(©改訂委)、21-303番(©P.D.)

今年のレント(受難節・四旬節)は、3月5日(水)から4月19日(土)です。

レントの期間は、イエス様の生涯や十字架の意味、イエス様に従うとはどういうことかについて考える時です。

◎お知らせ

- ・本日、礼拝後に、今月末で異動される水谷憲先生を囲んでの愛餐会(送別昼食会)を開催いたします。
- ・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。
- ・本日3月30日(日)と5月11日(日)の2回にわたり、それぞれ15時~17時にかけて、東梅田教会にて、大阪教区社会委員会主催の連続講演会「70年万博の全容」が開催されます。講師は、70年万博における「キリスト教館」を巡る議論について歴史的に研究されて来られた増田斎さん(明治学院大学キリスト教研究所協力研究員)です。本日3月30日の第1回は、「なぜキリスト教会は、万博に参加したのか」です。5月11日の第2回は、「なぜキリスト教会は、万博に反対したか」です。それぞれ、参加費は無料で、事前の参加申込も不要です。どなたでも、当日にご参加いただくことが可能です。
「EXPO2025大阪・関西万博」の開幕が、いよいよ半月後に迫って来た今、キリスト者が社会に関わるということについて、異なる立場が生じて、対立が生み出された50年前の万博と重ねつつ、今、私たちの立ち位置を見つめ直していきましょう。

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
4/6	牛田匡牧師	ユウカリスト・教会を考える会
4/13	牛田匡牧師	おにぎり支援
4/20	牛田匡牧師	イースター礼拝・ユウカリスト愛餐会
4/27	休会	(第二好意の庭・感謝祝福式) 教会での礼拝はお休みです

大阪教区社会委員会 連続講演会

70年万博の全容

第1回 なぜキリスト教界は

万博に参加したのか

3/30(日)

15:00~17:00

5/11(日)

15:00~17:00

第2回 なぜキリスト教界は

万博に反対したのか

講師：増田 斎さん

国際日本文化研究センター博士研究員・明治学院大学キリスト教研究所協力研究員

主な著作「1970年キリスト教界における戦後主体性論争——大阪万博キリスト教館と万博反対運動」
(佐野真由子編著「万博学——万国博覧会という、世界を把握する方法」思文閣出版、2020年)

会場：東梅田教会

間もなく大阪・関西万博2025が開かれようとしています。70年万博は、日本のキリスト教界に強烈な問いを投げかけました。キリスト者が社会に関わるとはどういうことなのか…。異なる立場が生じ、各々が信仰の問題として向き合いました。

あの時代、キリスト教界ではどのような事が起こっていたのか。

今回、キリスト教館を巡る議論について歴史的に研究されてこられた増田斎さんをお招きし連続講演会を行います。50年前の万博と重ねつつ、今、私たちの立ち位置を見つめ直す、学びの時にしていきましょう。

主催 大阪教区社会委員会

問い合わせ：uccj.osaka.shakai@gmail.com